資　料

幼児の養育者用ライフイベント質問票の作成

塩川　宏郷

要　旨

人生におけるできごと（ライフイベント）の発生頻度や他要因との関連，子どもの心身症や発達・行動の問題への影響を測定することを目的とし，幼児の養育者向けのライフイベント質問票を作成した。項目数49の原案を用いて調査を行い，発生頻度とライフイベントの重み付けに関する意識調査との関連を検討し最終的に25項目のライフイベント質問票とした。これらについて項目分析および因子分析を行い，質問票の信頼性について検討し家族機能との関連を考察した。幼児の養育者のライフイベント研究において今回作成したライフイベント質問票を用いることの可能性が示唆された。

（キーワード：ライフイベント，質問紙，家族機能）

Ⅰ．はじめに

人生におけるさまざまなできごと，特にストレス関連のライフイベント（stressful life event，以下ライフイベント）については健康に影響をおよぼすものとしてこれまで検討されてきた[1]。急性のライフイベント（災害や事故，事件など）は急性ストレス反応を惹起しその後トラウマ化すると外傷性ストレス障害などの病的状態につながっていくという経過についてはコンセンサスが得られている[2]。しかしながら，その経過がどのような因子に影響されるのか，あるいはどのようなライフイベントがどのような意味を持つのかについて，さらにはライフイベントの質と量がどのようなメカニズムで健康に影響を及ぼすのかについては不明な点が多い。これはライフイベントのもつ意義が，研究が行われる地域や年代について変容していくことのみならず，ライフイベントそのものの妥当性や，信頼性のある研究方法論が確立していないことによる[3]。小児におけるライフイベント研究はいまだ少なく，さらに乳幼児をもつ親が経験するライフイベントがどのような意義を持つかについてはほとんど報告されていない[4]。ライフイベント研究の端緒を開くべく調査研究を行ったので考察を加え報告する。

自治医科大学小児科学講座

Ⅱ．目的

今回の調査研究は，小児科領域特に幼児の保護者を対象としたライフイベント研究を行う際に使用できるライフイベント質問票を作成すること，および乳幼児の保護者が経験するライフイベントのアウトラインと，家族機能との関連について検討することを目的とした。

Ⅲ．対象および方法

調査はA県在住の，幼稚園に通う幼児の保護者に協力していただいた。

A．ライフイベント質問票の作成

ライフイベント質問票は，国内で行われた先行研究において選定されたライフイベント項目[4]と，教科書的に stressful life event と定義されている項目，小児の精神医学において chronic adversity（慢性的に持続する逆境的な環境）[5]とされる項目を参考にし，49項目から

表１：因子分析結果

	1	2	3	4
子どもの生命の危険を感じた。	0.845	-0.203	-0.037	-0.242
自分が暴力，犯罪の被害にあった。	0.839	-0.130	0.117	-0.172
両親が離婚した。	0.813	-0.228	-0.047	0.304
両親の一方または双方が死亡した。	0.806	-0.160	-0.188	-0.009
両親が別居した。	0.792	-0.222	-0.012	0.309
自然災害の被害を受けた。	0.783	0.031	-0.046	-0.029
両親の一方または双方が入院した。	0.774	0.057	-0.349	0.113
この子が外から見てわかる障害，傷を負った。	0.772	-0.189	0.045	-0.310
祖父母の一方あるいは双方が死亡した。	0.737	-0.131	-0.180	0.008
両親間の言い争いの回数が増えた。	0.731	0.109	-0.040	0.056
両親の一方または双方が失業した。	0.729	-0.061	-0.248	0.059
この子が病気で入院した。	0.706	0.129	0.015	-0.240
引っ越しした。	0.460	0.561	-0.161	-0.058
家を改築あるいは新築した（引っ越しはしていない）。	0.266	0.513	-0.247	0.487
家族に新しい大人が加わった。	0.511	0.463	-0.006	-0.372
父親が同じ職場での仕事の内容がかわった。	0.385	0.430	0.347	0.290
父親が家庭にいる時間が増えた。	0.309	0.404	-0.167	-0.311
子どもに対して暴力をふるった。	0.555	-0.012	0.516	0.044
子どもが他人に暴力をふるった。	0.614	0.103	0.438	-0.051
この子の仲の良い友達がいなくなった。	0.497	0.108	0.396	0.025
育児に負担を感じるようになった。	0.561	-0.002	0.226	0.280
ひどく落ち込んだりやる気がないと感じたりする	0.648	-0.253	-0.196	0.057
家族の収入が大幅に減少した。	0.637	0.105	-0.099	0.009
子どもに対して傷つけるようなひどいことを言った。	0.685	-0.158	0.160	-0.020
ひどく取り乱したり混乱したりした。	0.424	-0.251	0.216	-0.012

なる予備調査用ライフイベント質問票を作成し，これらのライフイベントについて「実際にこの６ヶ月の間に体験したかどうか」を「あり」「なし」で選択するパート，および「これらのライフイベントの重み付け」について耐え難いストレスになるかどうかを４段階に評価するパートにわけ，予備調査を行った。その結果から，発生頻度が極端に少ない項目と重み付けが低い項目を削除することで25項目のライフイベント質問票を作成した（巻末資料１参照）。質問票としての信頼性係数の算出と因子分析を行い，ライフイベントの頻度分析を行った。

B．ライフイベントと家族機能の関連

ライフイベント質問票と家族機能を測定する家族アプガー（巻末資料２参照）[6]を記入してもらい，ライフイベント数と家族アプガー得点との関連を検討し，質問票から伺われる乳幼児の保護者が経験するライフイベントの性格と家

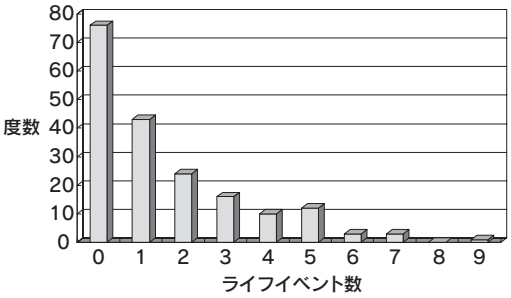

図１：ライフイベント頻度分布

族機能の関係についてについて検討した。

Ⅳ．結果

有効回答は188人から得られた。子どもの年齢は２歳～６歳（平均年齢4.7歳）で男児103人，女児85人，回答者の内訳は母親179人，父親９人，回答者の平均年齢は35.9歳であった。ライフイベント質問票の全体の信頼性係数αは0.942であり，質問票として一定のまとまりをもつと判断された。また因子分析（主因子法，Valimax 回転による直交解）結果からは４因子が抽出された（表１）。

調査時点から６ヶ月前の期間に経験したライフイベントは回答者一人あたり1.5個（０－９個）であった。図１にライフイベントの度数分布を示した。表２には今回調査したライフイベントの中で発生頻度の高い項目を示した。「子どもに対してひどいことを言った」「子どもに対して暴力を振るった」「ひどく気持ちが落ち込んだ」などの項目の発生頻度が高かった。また，自分の親の死亡や離婚，別居なども頻度は少ないが皆無ではなかった。

表２：ライフイベント発生頻度結果（発生頻度が高かった10項目）

子どもに対して傷つけるようなひどいことを言った。	(42件)
ひどく落ち込んだりやる気がないと感じるようになった。	(35件)
子どもに対して暴力を振るった。	(34件)
育児に負担を感じるようになった。	(28件)
ひどく取り乱したり混乱したりした。	(24件)
父親が家庭にいる時間が増えた。	(22件)
母親が新しく仕事を始めた。	(18件)
子どもが他人に暴力をふるった。	(17件)
母親が家庭にいる時間が少なくなった。	(14件)
祖父母の一方あるいは双方が入院した。	(13件)

表３：家族アプガーとの関連がみられた項目

子どもに対して暴力をふるった。
家族の収入が大幅に減少した。
ひどく落ち込んだりやる気がないと感じるようになった。
ひどく取り乱したり混乱したりした。
子どもが外からみてわかる障害，傷を負った。

表３は，家族機能指標の家族アプガー得点との関連をみたものである。各ライフイベント項目について，「あり」「なし」の２群間で家族アプガー得点を比較し，「あり」の群が有意に（Mann-Whitney U-test, $p<0.05$）低かった項目を示した。「子どもに対して暴力をふるった」「家族の収入が大幅に減少した」「ひどく落ち込んだりやる気がないと感じるようになった」などの項目が，家族機能を低下させる可能性があることが示唆された。ライフイベント数と家族アプガーの間には有意な負の相関が認められ（Pearson, $r=-.295$, $p<0.01$），経験したライフイベントが多いほど家族機能が低下する傾向が認められた。

Ⅴ．考察

A．ライフイベント質問票について

これまでいくつかのライフイベント質問票が開発されているが，幼児の保護者を対象としたもので信頼性や妥当性について検討されている質問票は少ない。先述のようにライフイベントの意味づけは，文化的な影響や調査を行う時期によって異なることが想定されるためそれに合致する多彩なライフイベント項目を選定する必要がある[3)]。今回の検討において作成した質問表は，特に幼児を持つ保護者を対象として想定しており，実際に経験した頻度と回答した人の重み付けによって項目を選定したものである。内的整合性は十分高くまとまりを持った質問票であり，因子分析からは４因子が抽出されており，それぞれ「事故や健康状態に関する因子」「家族構造の変化因子」「暴力・喪失因子」「養

育者情緒変化因子」ととらえることが可能であるが，各項目の因子寄与率をみると0.5以上の項目が20項目をしめており，実質的には質問項目を因子分割することは現実的ではない。すなわち本質問票は十分なまとまり（内的整合性）をもっているととらえることが可能である。これらにより本質問票の信頼性について確認された。

B．幼児の保護者の経験するライフイベントの特徴

ライフイベント研究については，Paykel の総説が詳しい[1]。さまざまな精神疾患や心身症と呼ばれる病態に対してライフイベントが何らかの影響をもたらすと考えられるが，現在のところそのメカニズムは解明されておらず検証すべき理論的な枠組みも十分に検討されていない。子どもにとってのライフイベントが子どもの心理発達や行動についてどのような様式で影響を及ぼすのか，すなわちライフイベントが数多く経験されると健康に影響を及ぼすものなのか（cummulative effect model），ライフイベントにともなう生体の反応のみならず社会資源の持つ機能の変化などから自己帰着的に心理社会的な問題につながるものなのか（heuristic model）結論はでていない[5]。特定の疾患について因果関係をもつ要因としての位置づけ（causal effect）を持つものではなく，その他の要因と相互的に関連しつつ影響を及ぼす要因の一つであるとされている[1]。

今回の調査において対象としたのは，幼稚園児を養育している保護者である。保護者が体験するライフイベントが子どもの発達にどのようなかかわりを持つのかを検討するためにはさらに理論的な枠組みと方法論の整備が必要である。調査結果からは，調査時点の６ヶ月以前からという限定した期間においても stressful life event を経験している養育者が半数以上にのぼっていた。本ライフイベント質問票は的確に養育者の経験を拾い上げていると考えられ，質問票としての信頼性のひとつの側面を満たしていると考えられる。調査票を使用しこれらのライフイベントについて宮本の指摘するライフイベント研究の問題点を踏まえて検討を今後行っていく必要がある[3]。

C．ライフイベントと家族機能の関連について

今回，質問票の信頼性検討の目的と付加的な意味づけのため，Smikstein が開発した家族アプガー[6]とライフイベント質問票を組み合わせて検討した。家族アプガーは「あなたが困っているとき家族はあなたの助けになりますか」などの５つの質問について，「いつも」「たまに」「ない」の３つの選択肢から回答するもので，10点満点で採点され，新生児の Apgar スコアになぞらえて得点が高いほど良好な家族機能と判定される。使用経験からは平均得点は7.6点程度で，５点以下は家族機能に何らかの問題が存在すると考えられる[7]。今回の結果はライフイベント数と家族機能とに負の相関，すなわちストレスフルなライフイベントが多いほど家族機能は低下するという関係が認められた。また，特定のライフイベント（「子どもに暴力をふるった」「収入の低下」「養育者のうつ気分」）が家族アプガーの低得点と相関があり，今後さらに質的な検討が必要であると考えられた。

D．本研究の問題点

ライフイベントの健康への影響については古くから議論されている問題ではあるが，宮本が指摘しているように研究を行ううえでさまざまな問題がある[3]。特に重要なものはその方法論であり，対象の選定や調査を行う地域およびライフイベントの選定などが挙げられている。また，ライフイベントの持つ意義は多様であり，子どもに与える影響と養育者に与える影響を同じレベルで議論することはできない。今回の調査においては，解答していただいた方の家族構成や年齢などの属性についてはまったく検討しておらず，共通するのは「乳幼児の親」とい点のみである。したがって調査票そのものの信頼性は妥当性については本調査のみで十分検討されたとは言いがたい。本研究は作成したライフイベント質問票の使用経験資料と位置づけられよう。その上で今回作成したライフイベント質問票は，幼児の保護者を対象とし予備調査の上作成したものであり，養育者にとってストレス状態をきたし得るライフイベントを拾っており，十分な内的整合性をもち，家族機能を評価

する質問表との相関も認められることから信頼性についても研究に使用可能なものであると考えられた。今後は本質問票を用い，子どもの発達への影響およびよりよい養育環境について研究を行う予定である。

Ⅵ．結語

幼児の養育者を対象とし，ライフイベント質問票を作成し使用した経験を報告した。

ライフイベント質問票の信頼性について検討し十分な信頼性が認められた。

ライフイベントが家族機能に影響をおよぼす可能性が示唆された。

Ⅶ．謝辞

本研究を行うにあたり多大なご協力をいただいた，宇都宮大学大学院の保坂里絵先生（元宇都宮市清愛幼稚園保育士），野木町法得幼稚園，足利市東光寺幼稚園の保育士のみなさんおよび質問票に回答いただいた保護者の方に心より感謝申し上げます。なお，本研究は文部科学省科学研究費基盤研究（C）16591158および科学技術振興機構「脳科学と社会」研究開発領域計画型研究「日本における子供の認知・行動発達に影響を与える要因の解明」の支援によって行われた。

参考文献

1）Paykel E. : Life events: effect and genesis. Psychol Med 33: 1145-1148, 2003.

2）Sandberg S, Rutter M. : The role of acute life stresses. Child and Adolescent Psychiatry 4th ed.（Rutter M& Taylor E. eds）Blackwell, 2002, pp287-298.

3）宮本信也：Life Event. 小児内科　23：380-385，1991.

4）宮本信也：乳幼児における life event と健康状態の関連性．心身医学　31：392-397，1991.

5）Friedman RJ, Chase-Landale PL: Chronic Adversities. Child and Adolescent Psychiatry 4th ed.（Rutter M& Taylor E. eds）Blackwell, 2002, pp261-276.

6）Smilkstein G: The Family APGAR; a proposal for a family function test and its use by physicians. J Fam Pract 6: 1231-1239, 1978.

7）塩川宏郷，宮本信也，柳澤正義：小児科入院児の養育者とのかかわりに関する考察－「養育者アセスメント」の試み－．子どもの心とからだ　2：91-97，1993.

巻末資料１：ライフイベント質問票

私たちは毎日，さまざまなストレスになるできごとを体験します。以下に，一般的なストレス状態を引き起こすできごとが書かれています。この６ヶ月の間に体験したできごとについて，あり，なしを選んで□の中に○を記入してください。

この子の仲の良い友達がいなくなった（引越しなどで）。	あり□・なし□
子どもが他人に暴力をふるった。	あり□・なし□
子どもに対して暴力をふるった。	あり□・なし□
引越しをした。	あり□・なし□
家を改築あるいは新築した（引越しはしていない）。	あり□・なし□
家族に新しい大人が加わった（祖父母など）。	あり□・なし□
家族の収入の大幅な減少があった。	あり□・なし□
父親が家庭にいる時間が増えた。	あり□・なし□
父親が同じ職場での仕事の内容がかわった。	あり□・なし□
両親が離婚した。	あり□・なし□
両親が別居した。	あり□・なし□
両親の一方または双方が入院した。	あり□・なし□
両親間の言い争いの回数が増えた。	あり□・なし□
両親の一方または双方が失業した。	あり□・なし□
子どもに対して傷つけるようなひどいことを言った。	あり□・なし□
育児を負担に感じるようになった。	あり□・なし□
ひどく落ち込んだりやる気がないと感じたりするようになった。	あり□・なし□
ひどく取り乱したり混乱したりした。	あり□・なし□
自然災害の被害をうけた。	あり□・なし□
この子が外から見てわかる障害・傷を負った。	あり□・なし□
この子が病気で入院した。	あり□・なし□
子どもの生命の危険を感じた。	あり□・なし□
自分が暴力・犯罪の被害にあった。	あり□・なし□
祖父母の一方あるいは双方が死亡した。	あり□・なし□
両親の一方または双方が死亡した。	あり□・なし□

巻末資料２：家族アプガー（Smilkstein G, 1978）

次の５つの質問にあなたのご家族のことを思い浮かべて，あてはまるものに○をつけてください。家族とは，同居している家族はもちろんのこと，別居している家族も含めてかまいません。

１．なにか困ったとき家族はあなたの助けになりますか？
（　　）いつも助けになる。
（　　）ときどき助けになる。
（　　）ほとんど助けにならない。

２．あなたは家族と話し合ったり，苦労を分け合あうことに満足していますか？
（　　）いつも満足している。
（　　）ときどき満足している。
（　　）ほとんど満足していない。

３．あなたが何か新しいことをしようとしているとき，家族は助けになりますか？
（　　）いつも助けになる。
（　　）ときどき助けになる。
（　　）ほとんど助けにならない。

４．あなたの感情（たとえば怒り，寂しさ，愛など）に家族はこたえてくれますか？
（　　）いつもこたえてくれる。
（　　）ときどきこたえてくれる。
（　　）ほとんどこたえてくれない。

５．一家団らんの時間がありますか？
（　　）よくある。
（　　）ときどきある。
（　　）ほとんどない。

Development of the Life Event Questionnaire for Parents: Its use and reliability data.

Hirosato SHIOKAWA

Abstract

We developed a questionnaire measuring stressful life events for parents or caretakers of young children（Life Event Questionnaire for Parents）. The questionnaire has 24 items which indicate recent stressful life events and chronic adversities for children and families. The internal consistency（Cronbach's alpha）of the questionnaire is 0.941 and its reliability is established. The relationships between life events and family function are discussed. We conclude that researchers can use the life event questionnaire to investigate the effects of stressful life events on child health or development.

Department of Pediatrics, Jichi Medical University